

活用するスマート農業技術

栽培管理システム

新たな生産の方式

データを産地内で共有し、次期栽培に活用

水稲において、栽培管理システムから得られたデータ（地力、生育状況など）を産地内の農業者と共有し、そのデータと比較しながら次年度の栽培管理を改善する。

<申請者>

農事組合法人 Neo-ライスファクトリー
(福島県郡山市)

経営概況 (2026年4月時点)
経営規模：水稲8.5ha、ニンジン3ha
従業員数：3名

<対象品目>

水稲

<計画の実施期間>

5年間

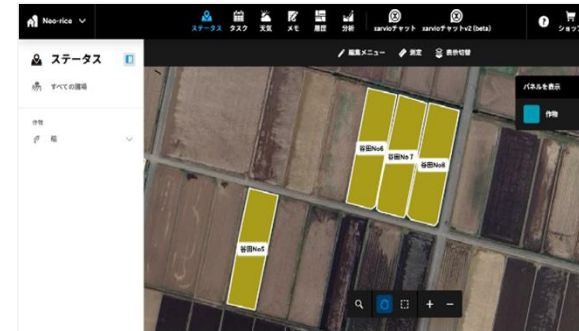
<活用予定の支援措置>

補助事業の優遇措置

<生産方式革新事業活動のイメージ 等>



Neo-ライスファクトリー
小野寺代表



栽培管理システム
(ザルビオフィールドマネージャー)

～認定を受けて一言～

認定にあたり、当組合では、栽培管理システムから得るデータを地域内農家と共有し、作業効率化を図るとともに、翌年作付けへ向けたデータ分析等、連携を取りながら生産性の向上に繋げていきたいと考えております。

今後も、スマート農業技術を積極的に活用し、地域農業発展のために尽力してまいります。